すまいる Smile

独立性易(どくりゅうしょうえき)ゆかりの地で もっと篆刻(てんこく)に親しんで！

Vol.80

大石　紗蓼(さりょう)さん
（桂町在住）

篆刻講師。西扉印会(さいひいんかい)山口県支部長・岩国支部長。市民に篆刻をもっと身近に感じてほしいという思いで、作品づくりに励んでいる。

「※篆刻は文字の書体の種類がいっぱいある今でもデザイン的に面白くて魅力的です。好きな文字を篆書体に置き換えて、それを石のサイズや隣の文字とのバランスを考えながら四角の石の中に閉じ込めてデザイン化するのです。書と違い篆刻はお手本がなく、自分の個性が出せるので飽きずにずっと続けてこられたんだと思います」大石紗蓼さんは穏やかながら説得力のある口調で語ります。

　もともと「書」を習っていた大石さんは、レクリエーションで篆刻を体験し「これは何だろう」と興味が湧いたそうです。そこで篆刻家の笹倉凌石先生との出会いがあり、書より篆刻のほうが面白いなと感じ、それから趣味でずっと続けてきました。

▼大石さんの作品

　数年前、師匠の勧めで篆刻講師となり、市内外で個展を開いたり教室の講師を務めたりしていましたが、今春からは吉川史料館御駕籠(かご)部屋ギャラリーで自身の篆刻作品や違うジャンルの人の作品展示をしています。

　ギャラリーでは主に岩国をテーマとした作品を観光客に観賞してもらい、今と違う季節の錦帯橋の風景を観光客に伝えることで「もう一度岩国に来てみたい」と期待感をもたせるよう努めていると言います。

　篆刻を体験する教室では『錦帯橋・独立・篆刻』をセットで捉え、錦帯橋創建に深く関わりのある独立性易禅師が日本に伝えた篆刻を、この岩国の地で市民や米軍基地の人たちに体験してもらい、ここから世界に向けて文化・芸術を発信したいと考えています。

　そして大石さんにとって錦帯橋は、通学路としてもなじみがあり、あって当たり前の橋と思っていたけれど、どこにも負けないきれいな橋だと誇りに思っています。錦帯橋をただ建造物として捉えるのではなく、橋の創建に関わった独立や吉川広嘉、その家臣などの能力を集結して完成させた背景を積極的に伝えていくことが、世界文化遺産登録につながっていくのではないかと大石さんは期待しています。

※篆刻とは印章を作成することで、中国を起源とし、主に篆書を印文に彫ることから篆刻という。明代の篆刻を日本に伝え「日本篆刻の祖」とされるのは、錦帯橋創建にゆかりのある独立性易禅師である。

▲大石さん愛用の道具

▲篆刻体験教室の様子